

Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.8

平成27年10月15日



循環器内科医師

目次

2・3

当院の循環器内科について

循環器内科部長 山内 雅人
循環器内科副部長 石橋 聡
循環器内科副部長 李 光浩
循環器内科副部長 浅野 達彦
循環器内科医 牧之内 崇
循環器内科医 出口 雄規

4

当院の臨床工学部について

5

当院の生理機能検査について

6

認定看護師のご紹介

集中ケア認定看護師
早野 景子

患者さんからの声

7

連携登録医のご紹介 やまだクリニック

8

当院の理念 リハビリ美術館

当院の循環器



循環器内科部長
山内 雅人
やまのうち まさと

循環器内科 頑張っています！

循環器内科は、内科の一専門分野のグループでしたが、PCI等より専門的な治療がスタートした平成18年10月から、循環器内科を標榜するようになりました。内科全体での症例カンファレンスなど、内科の一員としての位置づけは保っています。

平成25年10月の新診療棟オープンでICUが新設され、より専門的・積極的管理が可能になりました。これを機会に循環器疾患の専門性・緊急性から、重症患者の管理・救急への対応のため、循環器内科医師が、交代で循環器当直を行うようにしました。夜間・休日でも救急症例の迅速な診断・緊急処置も、よりスムーズに行えるようになり、心筋梗塞症例もより早期に再灌流して、機能回復が得られる症例も多くなっています。各スタッフも負担はありますが、やり甲斐を感じて、頑張ってくれています。マンパワーの充実も図って、より迅速で高レベルな診療ができるよう、今後も努力を続けてゆきます。



循環器内科副部長
石橋 聡
いしはし さとし

不整脈疾患に対するペースメーカー、アブレーション治療について

近年はペースメーカーの進歩も著しく、普段は患者さん自身の自己心拍をできるだけ温存することで生理的な循環動態を維持する機能を付加したり、MRI撮影に適應した機種も増えており、患者さんがペースメーカーを埋め込んだ後も可能な限り制限の少ない生活が送れるようになってきました。またペースメーカーの作動状況を病院にいながらにして遠隔モニタリングできる機能も普及してきており、ペースメーカーによるトラブルに対しより迅速に対応できるようになりました。

手術自体に関しては、電極リードを留置するため鎖骨下静脈を穿刺する際、造影し静脈を描出したうえで経皮的に胸郭外から透視下に肋骨を狙い穿刺することで、誤って肺を穿刺することを予防し気胸の合併を回避する手技が標準化してきており、より安全に手技を進めることができるようになりました。

当科ではペースメーカー適應となる洞不全症候群や房室ブロックの症例にも広く対応できるよう活動しています。

また発作性上室性頻拍や心房粗動、心室頻拍といった頻脈性不整脈に対するアブレーション治療(カテーテル焼灼術)につきましても、千葉大学より専門の医師を招聘し月に1回と症例は限られるものの、可能な範囲で対応できるよう活動中です。



循環器内科副部長
李 光浩
り こうこう

心エコー図検査について

私は以前千葉大学附属病院の心エコー(図)検査室責任者を務めた経歴も含め心エコー検査においては多くの経験がありますので、心エコー検査についてお話しいたします。循環器領域では心エコー検査は心電図に次ぐ基本的検査でありながら、テクノロジーの進歩により様々な新しい検査手法や数多くの計測法が創出されています。ただ日常臨床において大切なことを申しますと、エコーで見た心臓の中に何らかの異常を見つけてきちんと診断を下せることは当然大事ですが、まずそれ以前にいわゆる「心エコー病」を作り出さないことも非常に大切なことです。例えば真の左室肥大は臨床上大きな意味がありますがエコー検査の現場では左室肥大の過剰診断が安易に行われがちですし、心臓弁膜症の重症度においても過大評価がしばしば見受けられ、そのために患者さんに無用な不安を与えてしまうケースも稀ではありません。私どもは、そのようなmisleadをしないこと、あるいは正していくことも重要な責務のひとつと考えています。

内科について

虚血性心疾患の診療

虚血性心疾患は、心臓の栄養血管である冠動脈に動脈硬化が進展した結果引き起こされる病気です。典型的には胸が締め付けられるような胸痛や、息切れなどの症状を伴います。なかでも冠動脈が急に閉塞して発症する急性冠症候群(不安定狭心症および急性心筋梗塞)は致命的になりかねないため特に注意が必要です。症状が急に悪化する場合や長く持続する場合には速やかに治療を行い心臓のダメージを軽減する必要があります。

当院では循環器内科医が交代で対応を行い緊急カテーテル検査、治療といった専門的な処置ができる体制になっています。昨年度は待機例、緊急例合わせて180件程度のカテーテル治療を行い年々増加していますが、時期を逸することなく良質な医療を提供できるように心がけています。



循環器内科副部長
浅野 達彦
あさの たつひこ

循環器内科の研修

現在の循環器内科はスタッフ5名、後期研修医1名の計6名で診療にあたっています。

千葉ろうさい病院は、基本領域の専門医(総合内科専門医)およびサブスペシャリティの専門医(循環器専門医)を取得できる症例豊富な研修病院と思います。

当院での研修システムは時代のニーズにあわせて研修内容および研修設備が年々充実し、以前と比べると、はるかに良い環境で今の後期研修医の先生は過ごされているように思います。残念ながら、当院には心臓血管外科がないため、ステントグラフト、ICD植込みなど一部行えない手技がありますが、他職種・他院とうまく連携し、良い診療を提供できるための工夫が多彩にあります。

2013年10月から千葉ろうさい病院は建物も新しくなり、病院としての機能もさらに向上しました。これにあわせて内科当直から独立し、循環器当直もスタートしました。以前の循環器内科の体制とだいぶ変わってきていますが、これまで以上に良い医療を提供できるよう努めていきたいと考えています。



循環器内科医
牧之内 崇
まきのうち たかし

千葉ろうさい病院循環器内科での後期研修

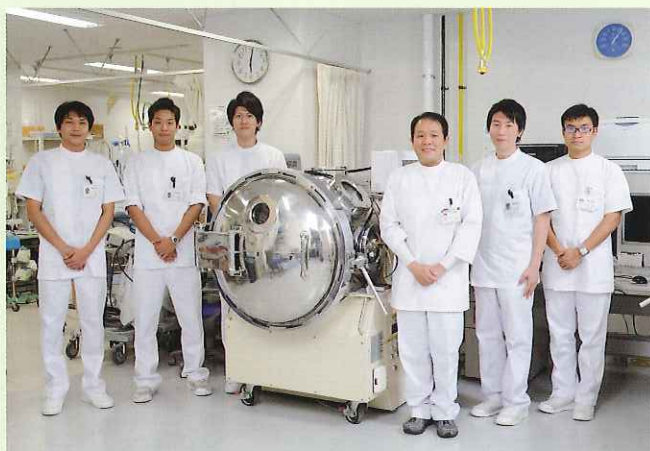
私は千葉大学循環器内科より派遣され、今春より当院の循環器内科後期研修医として勤務しております。当科の研修内容を少しご紹介致します。

当科では虚血性心疾患から心筋症、不整脈まで多岐にわたる症例を経験することができ、また検査や手技に関しても心エコーや冠動脈造影検査、ペースメーカー植込み術などを術者として行っております。この背景には高血圧、糖尿病、脂質異常症などの多彩な基礎疾患に対する幅広い内科的知識を有するだけでなく、画像検査や冠動脈インターベンションなど各種サブスペシャリティを有した経験豊富な上級医のサポートがあるため積極的に関わることができます。また毎週、冠動脈造影検査や担当症例に関するカンファレンスも行われるため、疑問点や治療方針に関するフィードバックを受けることができ、経験の少なさをカバーする一助にもなっています。



循環器内科医
出口 雄規
でぐち ゆうき

当院の臨床工学部について



臨床工学部スタッフ

当院では、2006年10月に循環器内科新設に伴って心臓カテーテル治療(PCI)を開始するにあたり、心肺補助装置(IABP・ECMO)など高度医療機器を取り扱う専門職として臨床工学技士(CE)が増員され、臨床工学部を発足しました。2015年4月にCEは6名体制となり、PCI・不整脈アブレーションやペースメーカー業務など循環器業務以外にも、高気圧酸素治療やICUでの各種血液浄化や人工呼吸、手術室での画像ナビゲーションや神経モニターなど最新医療機器の操作と点検管理を実施しています。

循環器疾患における急性心筋梗塞(AMI)など生命に直結する治療へ対応するため、24時間の待機制をとっております。

今後も各種医療機器の操作を実施し、さらに点検整備を行い、患者さんが安心できる医療を提供できるように貢献していこうと考えています。



人工呼吸器 V500

- ※IABP
Intra-Aortic Balloon pump(大動脈内バルーンポンプ)
- ※ECMO
Extracorporeal membrane oxygenation(体外式膜型人工肺)



高気圧酸素装置



当院の生理機能検査について



トレッドミル負荷心機能検査装置



超音波装置

中央検査部生理機能検査室は臨床検査技師正規職員8名(育休2名含む)、嘱託職員2名で構成されています。当院の生理機能検査は、心電図・呼吸機能・脳波・超音波・聴力平衡機能検査と幅広く行っています。

今回紹介する循環器内科と生理機能検査室の関わりでは、心電図検査をはじめホルター心電図、運動負荷心電図、病棟歩行負荷心電図、心臓超音波検査が該当します。平成26年度の年間検査件数は心電図12,000件、病棟歩行負荷心電図300件、トレッドミル運動負荷55件、ホルター心電図600件、心臓超音波2,700件の実績があります。

上記の検査はすべて循環器医師と臨床検査技師との連携で成り立っています。なかでも心臓超音波検査では、スクリーニングなどは臨床検査技師が主に担当し、心疾患の精査は循環器内科医師が担当し、毎日行っています。ホルター心電図検査は記録器を10台、解析装置は2台設置し常時検査解析が行えます。読影・臨床診断はすべて専門の循環器医師にお願いしています。また、心臓カテーテル治療後には、病態に合った負荷量で病棟歩行負荷心電図検査を退院するまで行っています。

当生理機能検査室では迅速かつ正確に検査を行うよう努めています。安心して検査にお越しください。



生理機能検査室スタッフ



認定看護師のご紹介



集中ケア認定看護師



集中ケア認定看護師
早野 景子
はやの けいこ

私は、2015年6月に集中ケア認定看護師を取得しました。当院では1人目の集中ケア認定看護師となります。集中ケア認定看護師は、生命の危機状態にある患者さんや家族、そして治療や看護に携わるスタッフに対して、より専門的な看護技術の実践や看護ケアの指導、相談を行っています。また、治療に伴う廃用症候群などの二次的な合併症の予防なども行っています。現在は集中治療室（ICU）に所属し、看護師長、看護師長補佐をはじめ35名のスタッフとともに働いています。

ICUは、内科系、外科系を問わず集中的に治療や看護を必要とする患者さんや、手術後の全身管理が必要な患者さんが入室されます。患者さんやご家族にとっては、集中的な治療や全身管理を要する状況になった時、今後への不安を感じる事が多くあると思います。そのような時に、少しでも不安を軽減するとともに、1日でも早く社会生活に戻れることを目指し、看護に取り組んでいきたいと思っています。

患者さんからの声

患者さんから

年々、職員の患者への対応が改善されていると感じている一人です。

私がエレベーターの乗り場を間違い、職員の乗り場へ乗ろうとしていたら、ある男性の職員が私の様子を見て、「患者の方はこの乗り場ではなく、別のエレベーターです」と優しい言葉で話してくださいました。それだけでなく、患者乗り場のエレベーターまで丁寧に案内してくださり、ボタンまで押してくださったことに深く感銘をいたしました。

今後とも職員への指導が徹底されますことを願う次第です。

病院から

このたびは、お褒めの言葉をいただきましてありがとうございます。

皆様からは様々な叱咤・激励のお言葉をいただき、病院運営に役立てさせていただいておりますが、このようなお言葉をいただくことで、大変嬉しく感じるところです。

今後とも患者さんの立場を考えて、丁寧な対応に努めてまいります。



連携登録医のご紹介



やまだクリニック

院長

やまだ ぜんじゅう

山田 善重 先生



私は、昭和52年千葉大学医学部を卒業後旧第3内科に入局し、関連病院<主に千葉市立海浜病院、国立千葉病院(現国立病院機構千葉医療センター)

等>で高血圧症、狭心症、心筋梗塞、心不全などの循環器病に関して研究・経験を積み、循環器専門医としてペースメーカー移植やカテーテルによる検査治療等を行って参りました。これらの経験を活かし、平成20年10月に千葉市緑区おゆみ野中央で循環器内科専門クリニックとして「内科・循環器内科やまだクリニック」を開院致しました。

当院では循環器疾患の患者さんがほとんどですが、専門外の患者さんも来られます。診断に悩む症例も多々あり、近隣の開業医や病院と連携しつつ診療に当たってきました。特に貴院は当院から比較的近くに位置し紹介しやすい病院となっていて何名かお世話になっております。また、時として循環器は急性冠症候群など緊急治療を要する症例もあります。開院して7年になりますが、これまで何名か緊急で貴院循環器内科にお願いして快く引き受けて下さり処置をして頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

これからも貴院とは連携を深めて診療に当たって行きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

内科・循環器内科 やまだクリニック 診療案内

〒266-0032 千葉市緑区おゆみ野中央7-34-3

電話番号 043-293-8921

診療科目 内科・循環器内科

診療時間		月	火	水	木	金	土	日・祝
午前	9:00 ~ 12:00	○	○	○	休	○	※	休
午後	3:00 ~ 6:00	○	○	○	休	○	休	休

※土曜はPM1:00までの診療となります

【休診日】木曜・日曜・祝日・土曜午後

千葉ろうさい病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々、勤労者の方々に
高度で安全な医療を提供します。

基本方針

1. 患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療を提供します。
2. 急性期医療・予防医療を担い、基幹病院として地域医療に貢献します。
3. 働く人々の健康を守り、社会復帰を支援します。
4. 豊かな人間性と高い技能を備えた医療人の育成をはかります。
5. 明るく向上心に満ちた職場をつくれます。

リハビリ美術館



「秋桜」

作／相澤喜久男さん

編集後記

1964年東京オリンピックの開会式が開催された記念として、かつては10月10日が「体育の日」に定められました。2020年の東京オリンピックは、7月24日が開会式と決まりました。今年のような猛暑だったらと思うと今から心配です。過ごしやすいこの時期に、気持ちよく運動したいものですね。十分な水分と栄養をとっていつもより少し体を動かしてみませんか。

広報委員会 栗原 奈津子(リハビリテーション部)